

# 出発点 10



魅力的な先生ばかり  
いろいろな先生と話してみよう

先日、本学園の附属幼稚園、小学校、中学校、教育学部の先生方の情報交換会に出席しました。初めてお会いする先生方も多かったのですが、それぞれの専門の先生方とお話するのはとても楽しかったです。

さて、同じテーブルに、大学の駒田先生と玉置先生がおられました。駒田先生は、保育専修で、医学の博士号もお持ちの頼もしい先生です。三重県の先生で、テノボのよい関西弁で、周囲を元気にさせていただけです。先生のご専門は、食育、食物アレルギーなどです。保育、教育における食育の重要性を様々な場でお話されたり、望ましい食生活のために調理レシピの小冊子を作成されたり、本当にエネルギーな先生です。障がいのある幼児児童生徒にとっても、食はとっても重要です。皆さんも先生のお話が聴ける時があればと思います。

玉置先生は、すでに授業でお世話になっている人は知っていますが、松本先生や安田と同様に、今年度、赴任された先生です。この三月までは、愛知県の小牧中学校の校長先生でした。

先生は、算数、数学がご専門ですが、一方で、学校をどう改革し、授業をどう改善していくのか、研究してこられました。お話が実に分かりやすく、自らの実践に基づく具体的なお話ができる先生であり、各地でご講演や講師を数多くご担当されています。

その玉置先生のホームページがあります。その中では、ゼミ生自身の発信がいっぱいあります。ゼミの雰囲気、学生として感じていること、考えていることが率直に記されており、とても参考になるはずですし、大いに刺激を受けてほしいと思います。

こうして、お二人のほかにも、いっぱい、魅力的な先生方が、大学あるいは、附属学校におられます。自分から先生方に積極的に話しかけ、その魅力にふれてほしいと思います。

是非見てほしいホームページ「玉置研究室」

<http://www10.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=2190001>

身近な実践として、『雑宝蔵経』(ぞうほうぞうきょう)に説かれる

## 無財の七布施

1. 眼施(げんせ)「常によいまなざしで見、険しい目で見ない」(經典)  
⇒周りの人たちに優しい、思いやりのある慈しみの目で接すること。
2. 和顔施(わごんせ)「悪い感情をあらわにして険しい表情をしない」(經典)  
⇒和やかな顔、喜びの顔、希望に満ちた顔で接すること。
3. 言辞施(ごんじせ)「柔らかな言葉を出し、粗暴な言葉を使わない」(經典)  
⇒気持ちの良い、明るい言葉、温かい言葉で話しかけること。
4. 身施(しんせ)「起ち迎えて礼拝す」(經典)  
⇒骨身を惜しまず、真心をこめて奉仕すること。
5. 心施(しんせ)「上記のような内容で(眼施から身施まで)布施したとしても、心に思いやりがなければ本当の布施にならない。心に思いやりがあれば、深く供養を生ずるであろう」(經典)  
⇒思いやりの心を持つこと。  
相手の気持ちを考えた心配りで、親身になって真心を込めて行うこと。
6. 床座施(しょうざせ)「席を作って座らせる、あるいは、自分がすでに座っている席を譲って、座っていただく」(經典)  
⇒他の人のために気持ちよく座席や場所をゆずること。
7. 房舎施(ぼうしゃせ)「家の中に迎えて過ごしてもらう」(經典)  
⇒温かく自分の家に迎えたり、雨宿りの場所を提供すること。

お金や地位がなくても  
誰でもできる布施行

発行年月日  
2015年6月30日

発行人  
特別支援教育  
専修教員チーム



編集者より  
ひとこと

本学(岐阜聖徳学園)は、仏教精神とりわけ大乘仏教の精神を建学の精神とし、浄土真宗の宗祖親鸞聖人が和国の教主と敬慕された聖徳太子の「以和為貴」の聖句をその象徴として掲げ、「平等」「寛容」「利他」の大乘仏教の精神を体得する人格の形成をめざしています。(HPより)  
ゴミが落ちていたり、場所をまたいで立ち去らないなど、日ごろの心持ちこそ大切ですね。今回ご紹介した「無財の七布施」は、だれにでも今日からでもできることはばかりです。